



誰もが力を発揮できる会社に

産業装置メーカーにおいて、前線に女性を配置している企業はまだまだ少ない。大川原製作所では2007年から女性の活躍推進を進め、各人がそれぞれの現場で確かなキャリアを築いている。しかし、依頼主の業種は広がり、扱う素材はさらに多様に。多岐に渡るニーズに添えていくためには、今まで以上に新しい刺激や柔軟な発想が必要になる。そんな考えから、2016年、同社はダイバーシティ経営を加速させるためのプロジェクト「OKWOMEN（オーケーウィメン）」スタートさせた。

招集メンバーは全員女性。最初の座談会は、女性の働く環境がテーマになると思われたが、導かれた結論は、立ち上げを呼びかけた営業本部の大川原さんにとっても意外なものであり、同時に喜びを感じるものとなった。「男性女性に関係なく、日本人も外国人も、誰もが最大限に能力を発揮できるように、みんなが働きやすい環境を整えることが大切ではないか」。その



ためには固定観念や時代にそぐわない組織風土を改めていく必要がある。翌年には男性メンバーが加わった。

成果はすでに現れている。会社の理念を記したカードが配られ、作業着が一新された。しかし、一番の変化はメンバーの心の内に起こった。受け身だったメンバーが進んでセミナーに足を運び、仲間に関心をもつてもらう努力を続ける。「目の前の仕事だけでなく、会社全体のことを考えるようになりまし」と開発部の保崎さん。社内に潤いをもたらす風が、次第に強くなっていく予感がする。



お客様の“理想の乾燥”を導き出す

エンジニアリング一部 技術一課 小杉 夏未

社屋の屋根に掲げられた看板から、手がける製品が「乾燥装置」であることは、かねてより承知していた。しかし案内された通路のガラスケースにズラリと収められたアイテムたちを見て、取材班から思わず声が上がった。調味料、菓子類をはじめ、医薬品や紙おむつ、スマホやパソコンの部品に至るまで。誰もが知るメーカーの商品も多い。地元メイドの機械によって生み出された品々が、これほどまで広範囲に私たちの暮らしに溶け込んでいることに、驚きとそれを越えようという力が広がった。

そんな同社にあつて、小杉さんは主にデモ試験を担当している。それは依頼主が持ち込む実際の材料を使い、保有する小型機で適正を確認する仕事。圧力、加熱温度、真空度、材料の供給量など、さまざまな条件について吟味を繰り返す。依頼主が求める結果、仕上がりを目指す。そう、「大川原に任せる」と言ってもらったための大切なステップだ。今はまだ、上司の指示と先輩の



アドバイスに頼ることが多いが、「はやく自分ひとりで決断し、最後までやりきる」ことのできる自信がほしい」と澄んだ眼差しで前を見つめる。高校時代は、数学や物理が得意だった。工学部を選んだのは、普段の生活に必要とされる製品づくりに関わりたい、そのための「使える知識」を得たいと思ったからだ。大川原製作所は、そんな思いと専攻内容が交差するところにある会社だった。男性社員の比率が高い職場であるが、「女性だから」とは言わせたくない。ゆくゆくは先を往く同僚の先輩たちが活躍している場所へと歩を進めたいと思う。今の一喜一憂はその日のためのものであり、依頼主の満足した表情からもたらされるやりがいは、はるかに大きなものになっているに違いない。



株式会社 大川原製作所
〒421-0304
静岡県榛原郡吉田町神戸 1235
TEL：0548-32-3212
HP：https://www.okawara.co.jp/

《企業情報》

昭和2（1927）年創業、世界でもトップレベルの技術をもつ乾燥装置専門メーカーとして知られる。地場産業である製茶業向け乾燥機にはじまり、現在は食品、化学、医薬、環境などの幅広い分野に、乾燥・濃縮・殺菌・濾過及び焼却に関わる各種装置を提供する。徹底したヒアリングでクライアントの要望を見極め、試験設備で実証実験を繰り返し行うことで最適な仕様を決定するため、製作される装置のほぼすべてがオーダーメイドである。豊富な経験と独自の技術力に加え、基本設計、詳細設計、製造・組み立て、据付け、試運転、さらにはアフターまでの「一貫体制」も信頼を集める理由となっている。近年はグローバル化の進展に合わせ、実績を海外市場へと拡大する。世界各地のマーケットにおけるパートナー企業との確かな連携・協働が、地域ごとに異なるニーズを高いレベルで叶える、柔軟かつ迅速な対応を可能にしている。

